部報
心・技・体
岡崎市小中学校体育部
２０２６．８．３１
No.２０６

第１回 FINAL CUP は、地域ブロック部活動として、上位大会進出をねらう初めての大会となりました。部活動指導に奮闘された２名の先生方に、学校という枠を越えたつながりやここまでの歩みについて熱く語っていただきました。今後のチーム作りの参考になることと思います。

また、授業力・教師力アップセミナーには、今年度も多くの先生方に参加していただきました。セミナー後には、２学期の実践に向けて準備を進める先生の姿が見られ、大変充実した時間となりました。受講者からの感想を掲載いたしました。ご一読ください。

「みんな」という言葉に見た成長

岡崎市立岩津中学校　　豊田　操平

「県大会出場を目指そう」

昨夏、新チーム発足時に、主将が仲間にかけた最初の言葉である。地域ブロック部活動 “岡崎 NORTH” として、岩津中、北中、新香山中の３校での活動が始まった。だが、結成当初の“岡崎 NORTH”は、学校が違うからか、選手同士が互いの思いを伝え合うことができなかった。連携もままならず、チームとしてのまとまりが見られなかった。そのスタートは順調とは言えないものだった。

転機となったのは Autumn CUP での３位入賞。結果以上に「自分たちも戦える」という自信を得たことが大きな収穫であった。試合中にも仲間と声をかけ合い、チームは少しずつ一つになっていった。



冬は、チームで掲げた県大会出場を目標に、厳しい練習を重ねた。しかし、Spring CUP でも優勝には届かなかった。勝ちたい気持ちが強くなるほど、主将の言葉は厳しくなっていった。私は彼に「主将の一言には、人を前向きにも、後ろ向きにもする力がある。だからこそ、仲間を信じる言葉を届けてほしい」と伝えた。その日から主将は変わった。誰よりもチームのために動き、仲間を励まし続ける存在になっていった。

最後の FINAL CUP。前半に失点し、多くの選手が下を向いた。その時、主将は仲間を集め「まだ１点差だ。下を向くような状況じゃない。このチームで勝つんだ」と声をかけた。その一言で選手は再び顔を上げた。誰よりも仲間を信じてきた主将の言葉だからこそ、チームの心を一つにすることができた。

惜しくも県大会への夢は叶わなかった。試合後、主将は涙を流しながら「もっとこのチームで試合がしたかった。みんなで笑って終わりたかった」と思いを伝えた。その言葉を聞いた瞬間、私の胸が熱くなった。特に「みんな」という一言に心を打たれた。以前の彼なら、自分の悔しさだけを口にしていたかもしれない。しかし最後に語ったのは、自分ではなく仲間への思いだった。この一年で、勝利だけを追い求める選手から、仲間のために戦える真の主将へと成長したのだと感じた。

その姿は、今も後輩たちへと受け継がれている。私もまた選手たちと新たな一年を歩む。次こそみんなで笑って終われる夏を目指して。

地域ブロック部活動が結んだ縁、深まるつながり

岡崎市立翔南中学校　　次呂久　尚香

地域域ブロック部活動が始まり一年が経った。３校が集まった当初、生徒たちは互いを探りながら慎重に関わり始めたが、合同練習を重ねるうちに士気が高まり、互いを刺激し合う関係へと変わっていった。「平日も合同でできたらいい」という声が上がるほど、この活動は生徒にとって特別なものとなった。大会前には夜間活動も始まり、平日にも仲間と練習できることを喜ぶ姿が見られた。生徒たちは、バスケットボールの楽しさを感じながら活動を広げていった。

そんな一年を経て迎えた、FINAL CUP。選手宣誓を務めたのは、翔南中学校に通う岡崎 SOUTH 女子バスケットボール部のキャプテンだった。彼女の宣誓を聞いた瞬間、「終わりが始まってしまった」と胸が締

めつけられた。彼女はいつも真剣に部活動と向き合い、キャプテンとして仲間に厳しい意見も伝えてきた。３校合同の大きな集団をまとめることは容易ではなかったが、彼女は思い通りにいかない悔しさを重ねる中で、「自分」だけでなく、「仲間の大切さ」を理解してきた。いつしか彼女は、後輩やＢチームの生徒からも慕われるようになり、仲間のために動く姿が当たり前になっていった。夜間活動では南中学校のキャプテンが中心となり、最後の大会に向けて、さらに熱が入った。私自身が、生徒たちの熱量に、背中を押されるほどだった。

最後の大会ではチームを分けて出場したが、Ｂチームの仲間を必死に応援する姿は圧巻で、絆の強さを感じた。二人のキャプテンが互いを補い合いながら仲間を導いたことで、３校合同チームは一つの方向へ進むことができた。惜しくも西三大会へは進めなかったが、最後まで仲間を鼓舞し続ける姿は勝敗以上の価値をもたらした。



最後の夏、敗れた悔しさよりも３年生との別れが寂しかった。ここまでの地域ブロック部活動での練習を通して、まるで宴のような温かい時間を共有した。３校は次第に一つの大きな円を組むようになり、新たな縁が生まれていった。地域ブロック部活動が結んだ縁と深まったつながりは、生徒たちの成長を支える大きな力となっている。

授業力・教師力アップセミナー　体育・保健体育

7/22（水）に基礎編、7/23（木）に応用編を開催いたしました。基礎編では、徳原悠人先生（井田小）、松﨑俊介先生（常磐小）、山中智雅先生（六ツ美北中）に講師を務めていただきました。セミナーへのご協力と多数のご参加、ありがとうございました。

基礎編参加者の声

・マット運動では補助の仕方、ベースボール型では教具やルールの工夫、表現運動では運動の楽しさを知ることができるような導入の工夫などを学びました。２学期に生かしたいものばかりでした。
・様々な運動を体験することで、子供たちはどんな気持ちで運動に取り組んでいるのか少しわかった気がしました。２学期からは、子供たちの思考に沿った授業を組み立てられるようにしたいと思います。







応用編参加者の声

・自分たちが模擬授業を受け、学習カードを書いたことで、実際の子供の学びの見取り方が分かりやすかったです。他校の先生方と意見交流・協議ができたことも大変貴重な機会となりました。
・子供役として、タブレット端末で話している様子や試合の様子を撮影しましたが、撮って終わりではなく、どのように見取って評価するかをご指導いただいてとても勉強になりました。この研修で学んだことを２学期以降の指導と支援に生かしてきたいです。



